

1. 科目名 (単位数)	教育学総論 (2 単位)	池袋	3. 科目番号	EDMP5101
2. 授業担当教員	石崎 達也・柳本 雄次・大島 聡・片岡 浩・坂井 二郎			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	修士課程における必修科目			
7. 講義概要	本教育学研究科修士課程では、複雑化する現代社会における人間形成の諸課題を、子どもから高齢者までの自己形成と生涯発達の見点から深く捉え直す「総合的な人間教育学」を基盤にして研究する。 本講義では、多角的な視点から「人間とは何か」「教育とは何か」「文化とは何か」という本質的な問いに取り組むとともに、教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見について理解を深めることが目的である。そこで、教育学領域を中心とした人間関係諸科学の専門的知見について理解を深めるために、教育学領域・子ども支援領域・多文化共生領域の各学問領域の専門性を有した研究者らがオムニバス形式で講義・実践演習を行うことにより、今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力を養うことを目指す。 [オムニバス方式／全 15 回] (石崎達也 3 回) ----- 本講義では、「子どもの発見」とその「発達」保障から出発した近代教育学のフレームを、現代の臨床教育人間学から問い直す作業を行う。後発型近代化を終えた定常型社会では、「教育」の前に、「学び」と「意味深い生」が重視され、子どもだけでなく、若者、大人、高齢者も「自ら学ぶヒト」(ホモ・ディスケンス)である。向上志向の「発達」だけでなく、日常の生の不安や危機、老い、死の問題までも視野に入れた、より包括的な人間理解と、それに寄り添う臨床的な教育学の構築が求められる。受講生と共に、新たな人間理解と斬新な教育イメージを探索する。 (柳本雄次 3 回) ----- インクルーシブ教育への国際的動向を背景に、障害児教育の理念・制度・実態を歴史的及び比較教育的視点から学ぶことにより、今日的課題の解決のための知識・能力を培う。 (大島聡 3 回) ----- 現代は情報化社会と呼ばれている。また、私たちの日常生活においても、ICT の発達により、大きな変化が生じている。こうした変化は、人間の発達、そしてそれへの働きかけとしての教育のあり方にどのような影響を与えているのだろうか。その具体的な解決あるいは葛藤の場としての情報教育という領域を取り上げ考察する、 (片岡浩 3 回) ----- 教育学の中で芸術や文化にかかわる研究をする際の、教材開発の視点や表現方法を学び、研究の視野を広げる。また、五感を活用した先入観にとらわれない表現について体験的に学ぶ。 (坂井二郎 3 回) ----- グローバル化の進行する日本の教育現場における異文化理解の意義と課題を多角的に検討し、問題解決に向けた考察を試みる。			
8. 学習目標	[全体的な学習目標] 1. 対話・実践演習を通して、「総合的な人間教育学」について深く考え、多角的な視点から理解すること。 2. 教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見を学び、自らの研究に役立てること。 3. 今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力の基礎を身につけること。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各担当教員が課すレポート課題を提出すること。 (石崎)800 字程度で記述する小レポートを、毎回、課題として出す。 (柳本) 障害児教育の史的展開(特殊教育―特別支援教育)とインクルーシブ教育との関連性について自分の考えを述べる。 (大島) 講義内で通知する。 (片岡) 教育学の中で芸術や表現に関わる研究をする際のアプローチの仕方について学んだことをまとめること。 (坂井) グローバル時代の教育現場における異文化理解に付随する課題について複眼的にまとめること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・使用しない 【参考書】 ・中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波書店、1992 年。 ・池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房 ・森実・多様性教育ネットワーク『多様性教育入門』解放出版社 ・飯野厚・岡秀夫著『グローバル時代の英語教育―新しい英語科教育法』大修館書房 ・高橋勝『子どもが生きられる空間―生・経験・意味生成』東信堂、2014 年。 ・高橋勝『応答する〈生〉のために―〈力の開発〉から〈生きる歓び〉へ』東信堂、2019 年 ・柳本雄次・河合康編『特別支援教育(第 3 版)』福村出版、2019 年 【教材】 ・臨床美術プログラム (片岡／配布)			
11. 成績評価の基準と評定の方法	【評価の基準】 1. 「総合的な人間教育学」について深く考え、多角的な視点から理解することができたか。 2. 教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向けた専門的知見を学び、自らの研究に役立てることができたか。			

	きたか。 3. 今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直す思考力・想像力と領域横断的な研究能力の基礎を身につけることができたか。 【評価方法】 出席状況及び授業態度（40%）、レポート課題（60%）として、総合的に評価する。
12. 受講生へのメッセージ	これからの研究者には、既存の学問分野に閉じ込めるのではなく、多様な学問分野に関心を有し、既存の枠組みに囚われない見方・考え方をしながら、自らの研究活動を行っていく力が求められている。 将来、教員や研究者を目指す受講生には、このような幅広い臨床知・実践知としての「総合的な人間教育学」を基盤とした高い専門性と創造性が求められていることを自覚し、講義・対話・実践演習をとおして、自らの資質・能力の向上に努めてほしい。
13. オフィスアワー	石崎：授業中に連絡する。 柳本：講義内で通知する。 大島：講義内で通知する。 片岡：講義内で通知する。 坂井：初回授業時に通知する。
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1. テーマ	オリエンテーション ― いま、なぜ臨床教育学なのか（石崎達也）
【学習の目標】臨床教育学という学問の対象と方法を理解させる。 【学習の内容】授業全体の概要と流れを説明した後で、いま臨床教育学が求められる社会的背景を詳しく説明する。 【キーワード】臨床教育学、臨床教育人間学、発達と生成、生の危機と再生、受苦の経験、生世界（life-world） 【学習の課題】臨床教育学にかかわる主要概念を説明できるようにする。 【参考文献】遠藤野ゆり・大塚類『あたりまえを疑え——臨床教育学入門』新曜社、2014 【学習する上での留意点】学問は、あたりまえと思われた通念を、内から突破する武器であることを理解できるようにする。	
2. テーマ	「発達」から「生世界」（life-world）へ——人間にアプローチする二つの〈まなざし〉（石崎達也）
【学習の目標】「発達」のまなざしと「生世界」のまなざしという2つのまなざしの違いを他者に説明できるようにする。 【学習の内容】近代化の途上では「進歩」、「発達」、「一元的アイデンティティ」が重視され、定常型社会では「日常性」、「生世界」、「他者」が浮上するという〈まなざし〉の変化を詳細に説明する。 【キーワード】発達、生世界、日常性、分散するアイデンティティ、生の断片をつなぎ合わせる物語、他者 【学習の課題】「発達」（規範）から見る子どもと、「生世界」（事実）から見る子どもとは、見え方が異なることが理解できたか。 【参考文献】鷲田清一『現象学の視線——分散する理性』講談社学術文庫、1997 広井良典『定常型社会——新しい「豊かさ」の構想』岩波新書、2001 【学習する上での留意点】子ども・若者を見る〈まなざし〉は、その人の社会観が無意識に投影されることを理解させる。	
3. テーマ	子ども・若者の「生世界」を理解する（石崎達也）
【学習の目標】子ども・若者の「生世界」を、参加観察で理解する方法が理解できるようにする。 【学習の内容】子ども・若者の生世界を理解するには、「教育」という規範の〈まなざし〉で見ることを一旦中断（エポケー）する必要があることを理解させる。 【キーワード】子ども、若者、生世界、物語の共有、ナラティブ、関係性、参加観察 【学習の課題】人間を理解するということの難しさが実感できるようにする。 【参考文献】高橋勝『子どもが生きられる空間——生・経験・意味生成』東信堂、2014 【学習する上での留意点】個性や適性等のコトバで、子どもを安易に評価したり、割り切って見ることの問題点が理解できたか。	
4. テーマ	従前の障害児教育の分離型システムの史的展開（柳本雄次）
【学習の目標】障害児教育の史的発達の社会的要因と意義を理解する。 【学習の内容】障害児教育の分離型システムの展開を文献に基づき学び、その意義を考える。 【キーワード】慈善・博愛、救貧・防貧、障害児施設・障害児学校、分離教育 【学習の課題】障害児の生活・教育の問題の変容を歴史的に学び、グループディスカッションを行い自分の考えをまとめる。 【参考文献】資料配付 【学習する上での留意点】関係資料を事前に読んでくること。	
5. テーマ	今日の障害児教育の制度的転換（柳本雄次）
【学習の目標】障害児教育システムの理念・制度の転換について理解する。 【学習の内容】障害児教育の特殊教育（分離教育型）から特別支援教育への移行の背景と実態を学ぶ。 【キーワード】特殊教育、特別支援教育、特別支援学校、障害理解、特別な教育的ニーズ 【学習の課題】日本や諸外国における障害児教育制度の転換の背景を学び、提起された問題をディスカッションして見解をまとめる。 【参考文献】参考書・資料配付 【学習する上での留意点】関係文献を読み、まとめる。	
6. テーマ	今後のインクルーシブ教育の展開（柳本雄次）
【学習の目標】特別支援教育の目指す共生社会の形成とインクルーシブ教育の目的との異同を理解する。 【学習の内容】障害児の権利条約への特別支援教育の対応と特別な教育的ニーズ教育としてインクルーシブ教育との関係性を学ぶ。 【キーワード】特別支援教育、交流及び共同学習、障害者の権利条約、合理的配慮、サマランカ声明、インクルーシブ教育 【学習の課題】インクルーシブ教育とは何か、その歴史と理念について、グループディスカッションにより自分の考えをまとめる。 【参考文献】玉村公二彦他編『新版特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識』クリエイツかもがわ、2019年。 【学習する上での留意点】さまざまな関係用語の概念整理を自ら行うこと。	

7. テーマ	ICTと教育（大島聡）
【学習の目標】 現代社会におけるICTの発達とそれによる社会の情報化の状況を知り、教育との関連を考える。 【学習の内容】 ICTの発達により、私たちの社会や生活はどうなった？ 情報化とは？ 【キーワード】 ICT、AI、現代社会、情報化 【学習の課題】 配布資料をもとに話し合う。 【参考文献】 【学習する上での留意点】 自分の身の回りの変化に注意を向けよう。	
8. テーマ	社会の変化と情報教育（大島聡）
【学習の目標】 社会の変化と関連づけながら、情報教育の目的や内容が理解できる。 【学習の内容】 日本における社会の変化と情報教育の導入 【キーワード】 ICT、情報化、情報教育、情報活用能力 【学習の課題】 情報教育の目的や内容を説明できる。 【参考文献】 【学習する上での留意点】 自分が受けてきた教育を振り返ってみよう。	
9. テーマ	情報モラルは教育できるか（大島聡）
【学習の目標】 デューイがなぜ、胚芽的社会の経験をうたえていたのか理解する 【学習の内容】 リアル経験の大切さを知る 【キーワード】 剥落、胚芽社会、自然の経験、小宇宙、オキュペーション、直観教授、羅生門的接近 【学習の課題】 具体例を自分で見つける。 参考文献： デューイ『学校と社会』フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』 【学習する上での留意点】 言葉の理解には、具体例を考えること	
10. テーマ	臨床教育学における芸術領域の位置づけと意義について（片岡浩）
【学習の目標】 臨床教育学の中で芸術や文化を研究する意義を考える。 【学習の内容】 文献講読を通して、臨床教育学における芸術領域の位置づけと意義を理解し、それに基づいてディスカッションをする。 【キーワード】 臨床教育、芸術、文化、創造 【学習の課題】 文献の内容を整理し、それに基づいてディスカッションを行う。 【参考文献】 佐藤学・今井康編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』東京大学出版会 佐伯胖・藤田英典、佐藤学編『シリーズ学びと文化⑤ 表現者として育つ』東京大学出版会 資料配布 【学習する上での留意点】 経験や先入観にとらわれない学習の姿勢を望む。	
11. テーマ	芸術領域における教材開発の視点（片岡浩）
【学習の目標】 芸術領域における教材開発の視点を理解し、自らの研究に生かすことができるようにする。 【学習の内容】 造形表現（図画工作・美術）は、幼少期に於いては無意識に楽しめる傾向にあるが、成長とともに「上手い、下手」とらわれ苦手意識を抱いていく人が少なからず存在する。しかし、この教科は本来、自分の五感の機能を十分に活用し、材料の特性を最大限に活かしながら誰もが自由に表現を楽しみ、自己肯定感を呼び起こすという特性と魅力を備えており、これこそが「美術の持つ力」といえる。この点について体験的理解をはかる。 【キーワード】 教材開発、臨床美術 【学習の課題】 教科の知識や技能に偏らず、五感と素材の特性を活かした表現およびコミュニケーション構築を考えながら、教材開発を行う視点を身につける。 【参考資料】 資料配布 【学習する上での留意点】 経験や先入観にとらわれない学習の姿勢を望む。	
12. テーマ	芸術領域の表現方法（片岡浩）
【学習の目標】 芸術領域の表現方法について、技術・形式に頼るのではなく、「なぜ・何を・どのように」表現したいのか、表現するののかという核の部分となるコンセプトについて体験的に学び自分自身の研究に生かすことができるようにする。 【学習の内容】 芸術領域の表現方法についての概要を説明する。発想、表現と伝達についてブレインストーミング、グループディスカッション等をおとして体験的に学ぶ。 【キーワード】 発想、表現方法、プレゼンテーション 【学習の課題】 「コンセプト、技術、素材の特性」の関係性を理解し、自分自身の研究に生かすことができるようにする。 【参考文献】 資料配布 【学習する上での留意点】 経験や先入観にとらわれない学習の姿勢を望む。	
13. テーマ	グローバル時代の日本の教育現場における異文化理解の意義1：複眼的枠組みからの考察（坂井二郎）
【学習の目標】 グローバル化の意味を複眼的に検証し、日本の教育現場への影響を考察する。 【学習の内容】 グローバル化は経済レベルだけではなく、文化レベル、教育レベルなど様々な形で進行している。この多様なレベルで進行しているグローバル化の実態を功罪を含め、多角的かつ複眼的に考察する。その後、日本の教育現場にグローバル化がもたらす影響を検証する。 【キーワード】 グローバリゼーション、グローバルヴィレッジ、マーシャルマクルーハン、国際化、文化帝国主義、多言語主義、文化相対主義 【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。 【参考文献】 「よくわかる異文化コミュニケーション」池田理知子編著 【学習する上での留意点】 まずは既存の概念にとらわれず、自分で主体的かつ批判的に考える習慣を養うこと。	

14. テーマ	グローバル時代の日本の教育現場における異文化理解の意義2：多様性教育の立場からの考察（坂井二郎）
【学習の目標】多様性教育の意味を考察し、日本の教育現場への影響を考察する。 【学習の内容】グローバル化が進行するとともに、多様性を認知し受容する教育が重要になってくる。この回では、多様性教育の内容を概観し、日本の教育現場における今後の応用可能性について考察する。 【キーワード】多様性教育、文化・言語多様性、人権教育、ステレオタイプ・偏見・差別の構造 【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べておくこと。 【参考文献】「多様性教育入門」森実・大阪多様性教育ネットワーク著 【学習する上での留意点】既存の概念にとらわれず、自分で主体的かつ批判的に考えることを継続すること。	
15. テーマ	グローバル時代の日本の教育現場における異文化理解の意義3：英語教育の立場からの考察（坂井二郎）
【学習の目標】グローバル時代の英語教育の意味を複眼的に考察し、日本の教育現場への影響を検証する。 【学習の内容】グローバル化が進行するとともに、国際語としての英語の影響力は一層強まっている。この時代背景の中で、英語教育の今後の方向性を多角的かつ複眼的に考察し、日本の教育現場への影響を検証する。 【キーワード】国際語としての英語、英語帝国主義、異文化理解と英語教育、異文化コミュニケーション能力、多言語主義 【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べておくこと。 【参考文献】「グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法」飯野厚・岡秀夫著 【学習する上での留意点】既存の概念にとらわれず、自分で主体的かつ批判的に考えることを継続すること。	